

育児休業を取りました!!

平成29年7月から8月の2ヶ月間、2人目の子ども（次女・志織）の育児休業を取得しました。育児休業中は、朝起きて、1人目の子ども（長女・和奏）と朝ご飯を食べて、保育園の準備をして一緒に保育園に。帰ったらお昼を食べて、妻と一緒に志織をお風呂に入れて、夕方になったら保育園まで迎えに行き、帰ってきたら和奏とお風呂に入って夕飯を食べて、遊びたい盛りの子どもたちと遊んで…としていると意外とゆっくりしている時間はありませんでした。しかし、子どもたちと貴重な時間を過ごすことができ、次女が小さく外出が難しい間にも長女を保育園に通わせることもできました。

1人目が生まれたときは・・・

現在2歳になる長女和奏が生まれたのは、平成27年3月。大きい赤ちゃんで初産だったこともあり、妻ともよく相談して少し早めに出産日を決めて計画出産にしました。里帰り出産だったため、週末に私も実家に帰り、妻は日曜日の夜から入院して予定通り月曜日に出産。その後火曜日、水曜日は仕事を休み、木曜日、金曜日は一旦仕事に行き、妻が退院する週末からまた実家に帰って月曜日、火曜日はまた休暇を取りました。（配偶者出産休暇を2日と育児参加休暇を3日使ったと思います。）その後1ヶ月ほど妻と子どもは実家にいたので、週末は私も実家に帰っていました。ただ、このときは本格的な育児休業のことは全く頭にありませんでした。

「パパ会」

その後、和奏が1歳になり、保育園に入って、2人目の妊娠も分かっていたころ、知人からパパ会のお誘いがありました。パパ会とは、1月19日（イクメンイクジの日らしい）にパパ職員が子どもを連れて集まり日頃の育児に関する悩みや現状を話し合うイベントで、子どもが職場近くの保育園に通っていたこともあって参加してみることにしました。その頃、厚生労働省としても男性の育児参加の取組

を進めており、パパ会もマスコミにオープンで実施していたため、TV局から参加者の取材をしたいとの要望がありました。知人から取材を受けてくれないかと言われ、妻とも相談して、思い切って取材を受けてみることにしました。パパ会の前日には引越したての家にTVカメラが撮影に来たりで大変でしたが、放送後はいろいろな方から反響もあり、我が家にとってもよい記念になりました。また、次女が小さい間に長女をどうやって保育園に通わせるか漠然とした不安があったのですが、このイベントを通じてその間の育児休業の取得を考えるようになりました。パパ会の後には子どもを職場に連れて行って上司や同僚に紹介する「子ども参観」があり、上司からも育児休業の取得を勧めてもらい、結果として育児休業の取得につながったと思います。

現在の仕事は、

育児休業が終わり、9月からまた育児休業前の職場に復帰して、企業年金制度の数理的な審査や制度の立案等を行っています。朝は和奏を保育園に送ってから出勤しますが、業務もなかなか忙しく、帰るころには大体子供たちは寝てしまっています（中途半端に子どもが寝る前に帰ると、子どもが遊びたがって寝てくれず、次の日起きてくれなかったり…）。平日は遊べない分、休日は子どもと公園に行き遊んだりしています。

「まずは自分たちから変えていく、 そして社会を変えていく」

これは、パパ会に誘ってくれた知人の言葉です。私が入省してから10年が立ち、社会も職場環境も大きく変わっていますが、男性の育児休業の取得はまだまだ珍しいと思います。変わらないもの・変わってはいけないものもありますが、必要なものは、今後も時代のニーズに合わせて、または率先して変わっていかなくてはなりません。皆さんもまずは自分たちから、そして社会を変えてみませんか。



年金局企業年金・個人年金課基金数理室長補佐

前原 庸司

経 歴

- 平成18. 4 厚生労働省入省（大臣官房統計情報部雇用統計課）
- 平成19. 4 大臣官房統計情報部企画課情報企画室
- 平成20. 7 大臣官房国際課国際企画室（平成21年7月～主査）
- 平成22. 7 大臣官房統計情報部雇用統計課企画調整係長
- 平成24. 9 保険局調査課数理第二係長（平成26年4月～数理専門官）
- 平成27. 10 年金局企業年金国民年金基金課基金数理室長補佐（平成28年9月～室長補佐）（現 年金局企業年金・個人年金課基金数理室長補佐）